

ちよんごころこころ

第一三六 何が大事か

ある書物に「**道徳ある者は衆を楽しませ、道徳無き者は身を楽しむ**」と訓戒せり。

身を処するのは心であらう。寺内大吉師は「心は人体内の臓器ではなくて、常識でとらえてきた、第二の品性とも言うべき、心優しい・素直な・心強き・などの自己本位から脱却した無形の精神機能」ということになるようです。又、心とは熱情的(まごころ)とそれを批判し、反省する(こころげ)との複合を総称するのではないでしょうか」と言ってみえます。それは共に心を共有していると言えましよう。気遣い、気配りに欠落あれば災いを招くことに成りましよう。学生であらうと、社会人であらうと、自死する大きな要因は、ストレスで心が折れてしまうからです。折れた心を治すには、妙薬とてないのです。暖かく時期を待つ事が大事だと思えます。手を差し伸べてくれるのは、両親・家族・友達と行政も加わって来ました。**骨折ることを厭われない人達がいれば助けることができるでしょう。**まず、ふところに飛び込んでみよう。「窮鳥懐にいれば獵師も殺さず」と、勇気を持とう。「人事を尽くして天命を待つ」、「待てば甘露の日和あり」と申します。解決の道に通じると思えます。町田宗鳳教授は「正直言って、この世のあらゆる不幸は、**自分を粗末にすることから始まっている**。なぜなら他人を大切にすることができない人は、必ず自分を大切にすることを知っている人だからです。しかしながら、現代日本では、車やらペットは薄気味悪いほど大事にする人が多いのに、**自分**のことだけは、**あまりにもお粗末に扱いすぎです**」と、これは天台宗の開祖最澄坐主の「忘己利他」の思想といっしょです。また「わけもなく、疲れた、疲れたとつぶやく人間が増えているのです。なにに疲れたかと言えば人生そのものに疲れたのです。**人間は大なり小なり、八方塞がりの中で生きているのです。**その現実はどうしようもありません。**親が悪い、学校が悪い、社会が悪い、政治が悪い**と、自分の自由を奪う成約を人のせいにしていうちは、子供です。悪い悪いと言っているうちに**自分自身から悪い余波をどんどん発信することになり**、今よりも、もつと悪い現症が置き始めます」と述べてみえます。自分の置かれた環境に転化するようでは見込みなしです。ゴミ屋敷のように、考え方の違いで、大きな問題になっていますが、自然に取り巻く環境が地球に優しいのか、人間の目先に優しいのか考えて見る必要があります。養老孟司教授は「部屋を掃除すれば、部屋の秩序は高くなる。しかし実は、部屋の無秩序はゴミ箱に引越したただけである。そのゴミはいずれ燃やさなくてはならないから、結局は水と炭酸ガス分子が増える。部屋を掃除すると地球が温暖化して終わるのである」。エゴはやめ、不便でも最良の方法にしたがつて、行動するしかないのです。心を失うことになれば、犬畜生の動物と何ら変わりなく、人としての道を歩めなくなります。永田明春禪師は「耕山老師の教え、**調身・調息・調心が大事**であり、**それが心身の健康につながる**」と、調和のとおり方を指導して見えます。論語を愛読していた西郷隆盛氏は流罪になった時、論語の一節を模し「座して古今を窺い陳編を称す、富貴雲の如く、日に幾たびか遷る。人の吾を知らず、なんの憾みか有らん。一衣一鉢、天然に任す」と己が心境を詠んだ。**富や名声は雲の如くいつ消えても不思議ではない。**人から理解されずとも恨む気持ちはない。自分は「一衣一鉢」、僧のように我欲を捨て、自然のままに生きていこう。当に、法然上人と同じ自然法爾のお姿でしょう。

今月は平成から令和に変わった天皇陛下即位の礼が挙行されます。

令和元年十月一日

善壽界善入院油掛地藏尊